

平成29年7月18日

(有) 神門組 様
(株) ウエダ 様
(有) 井口建設 様
(株) 須山商事 様
(株) はたの産業 様
東幸建設 (株) 様
石見銀山建設 (株) 様
(有) 大一建設 様
(株) コーユー 様
(株) 堀工務店 様
(株) 中島工務店 様
(有) 灰戸組 様
景山土建 様

大田建設業協会事務局 今岡清雄

「登録解体工事講習」について

先日は、暑い中、松江市での講習会ご苦勞様でした。

さて、既にご承知かと存じますが、この講習会は、「継続学習制度(CPD S)」の対象 (5ユニット) となりますので、ご留意下さい。

CPDS とは

土木事業の分野ほど、その完成物が国民生活に直接、広範囲に、長期にわたり大きく影響を及ぼす産業は、他に見当たりません。最近の急激な科学技術の進歩につれて施工法は進歩し、また一方、環境や健康に対する国民の考え方が変わり、施工上のルールも急速に変化しています。土木技術者は、それに応じた技術の研鑽が欠かせません。

(一社)全国土木施工管理技士会連合会は平成 12 年度から、国内最初の『継続教育制度』を導入し、運用を開始しました。正式名称を「土木施工管理／CPDS」(継続的専門能力啓発システム=プロとしての生涯学習)といい、CPDS は Continuing Professional Development System の頭文字からきています。これは当会員を始め、土木施工管理技士の技術力や倫理観を高めるための学習・教育システムで、工学部門では国内で初めての画期的な制度です。

CPDS という全く新たな学習活動を実施するのか、と心配する人がいるかもしれない
けれども、そうではありません。CPDS とは今までの技士会活動そのもの
です。各県技士会の会員が従来から学習してきた内容、即ち講習会や講演会、
見学会に出席する、機関誌や専門誌に投稿する、講習会や講演会で講義をする

等であり、ただ従来と違うところは「学習記録を残していくこと」です。

このことを特に強調しておきます。つまり、CPDSは「土木施工管理技士の技術力を向上し、良いものを造り、国民の福祉向上に寄与する」技士会の活動趣旨に沿ったものです。

継続学習の重要性

技術者の技術力を評価する要素として、国際的にも認められているのは、一般的に次のような3つの柱(技術力を支える三本柱)を指しています。

- 学歴資格
- 実務経験(工事経歴)
- 継続学習(継続学習、生涯学習とも言います)

継続学習については日本ではまだ始まったばかりですが、当連合会が平成12年度に開始しているほか、既にいろいろな他団体で活発な動きがあります。技術士法では抜本的な改正がなされ、技術士に継続教育すなわち生涯学習が盛り込まれました。同様に土木学会でも平成13年4月から始まりました。また建築部門でも会員に対して、(公社)日本建築家協会や(公社)日本建築士会連合会も実施する方針が打ち出されています。

CPDS に参加するには

CPDS 参加者には、CPDS 技術者証を発行します。

一人ひとりが何時間学習したかの記録するため、まず継続学習参加の意思表示すなわち登録(CPDS 技術者証の発行)を行うことから始まります。CPDS(継続的専門能力啓発システム)は学習時間の UNIT(通常、1UNIT とは学習に費やした 1 時間)によって評価するものです。個人別に学習時間の UNIT を CPDS 台帳に記録し、データベースとして管理していきます。学習時間の UNIT は学習する度に加算され、学習時点からその学習は 5 年間有効です。5 年経過した学習時間は自然消滅(差し引き)していきます。

(学習時間 UNIT の確認)

CPDS 登録者は全国技士会のホームページから登録番号とパスワード(要設定)を使用し各自の UNIT 数を確認できます。また、学習履歴の申請や CPDS 新規申込も全国技士会のホームページから申請できます。

(CPDS 技術者証の発行)

CPDS の参加者に対し顔写真付の CPDS 技術者証を発行します。